論　文

現代ギリシア語の教育に関する諺

浮田　三郎

はじめに

諺の世界を覗いてみると、多くの興味ある表現がみられ、そこには、その民族の風俗・文化を背景にした民衆の知恵の世界が展開している（cf. 金子,1982、浮田,1988、1989、1994 etc.）。ここでは、現代ギリシア語の諺の世界で、「教育」に関する表現に目を向け、そこに見られる比喩表現とその底に流れている「教育」に関する民衆の知恵と概念を考察してみる。

一般に、諺は世の中の真実、道理、理想、自然の摂理を語り、それを民衆に悟らせてくれる。こうした観点からいえば、ほとんどの諺は、何らかの形で、教訓的あるいは訓育的といった面を含んでおり、「教育」に関係していると言ってよいであろうが、ここでは、比較的明らかに「教育」に関係している概念を語っていると思われる諺を選んで、考察してみる。

1、教育の態度

ところで、「教育」に関する表現と言ってもいわゆる「国語教育」とか「理科教育」などと言った具体的な教科などに関する教育・学習に関するものではなく、「人間の教育」あるいは「育て方」についての諺の世界を調べて、そこに見られる教育に対する人々の考え方や態度と比喩表現の形式を考えてみる。

全体的には、「教育・学習」に関すると言うより、教訓的、処世訓的なものが多く、ほとんどの諺がそうだと言えそうである。

人間の教育の中で、あるときは厳しくあるときは優しく育てるという考え方と態度は、日本の諺の表現の中にも見られる。

例えば、次のような諺を見てみよう。

(1)Παίξε με τον γάιδαρο που σε χτυπάει με την ουρά.

尻尾でおまえを打つロバと遊べ

(2)Γουρουνάκια και παιδάκια: όπως τα σηκόνεις έτσι τα βλέπεις.

子豚と子供：抱き起こすように見よ

cf.(3)Το παιχνίδι τρέφει το παιδί.(Μαρία-Δεδέ Μ.)

玩具が子供の守をする

cf.(4)Το παιδί που θα δαρθεί με την μάνα του θα παίξει.(ibid)

打たれる子は母と遊ぶ

(5)Κάλλιο να μεγαλώσης ένα γουρούνι παρά ένα παιδί.

子供より豚を育てる方がましだ

(6)Εκεί όπου είναι παιδιά, που κάνουν έρωτα, δεν μπορείς να κλείσης τις πόρτες.

恋をする子供がいるところでは戸を閉めることはできない

以上のように、「打つ」という表現が「厳しさ」を暗示している諺が見られるが、日本では、「旅、打つ」などのもつ表現が「厳しさ」を暗示している諺がある。しかし、現代ギリシア語の諺の「打つ」の表現のイメージは、日本の表現のイメージとは多少異なっている。

その他におもしろい表現がある。特に、教育・子育ての場で子供と豚を同列に置いて比較している考え方は、日本人には発想し難いであろう。例えば、(2) の「豚のように育てる」という表現は、「厳しさ」と「優しさ」を暗示しているように思われる。子豚と同列に置かれて比較されているのは「厳しい」であろうが、その育て方の態度には「優しさ」が窺える。特に、(5) では、いかにも厳しい言葉である。

(6) は、年頃の子どもの育て方の難しさを暗示している。このような考え方は、ギリシアでは比較的一般的のようである。若い我が娘の異性交際に関しては日本よりも保守的であるかもしれない。

2、教育の力

そうして、教育の効果、教育の力、その大切さを表現しているものも少なくない。

1）養育

育てることに関しては、次のような諺を挙げることができる。

(7)Το καλό ψωμί βγαίνει από το σκαφίδι.

美味しいパンはこね桶からできる

cf.(8)Το πρώτο παιδί είναι έξυπνο ή κουτό.

第一子は賢いか馬鹿である

cf.(9)尭の子尭ならず

(7)の表現では、パンとこね桶を比喩の素材に使用しているのもおもしろい。日々の生活の中に「パン作り」の姿が垣間みられる。しかしながら、(8)のように、子供に期待するのは何処の世でも同様であろうが、なかなか親の期待通りにはいかない教育の難しさも暗示している。(後述参照)

日本の諺にも(9)のようなものもある。

2）親の影響

親の影響に関する諺には、次ぎのようなものがある。

(10)Όποιος θέλει τη θυγατέρα, κυττάει τη μάνα.

娘を望む者は母を見る

(11)Όπου πηγαίνει η κλώσσα πηγαίνουν τα κλωσσόπουλα.

雌鶏が行くところへ雛鶏が行く

(12)Από 'κεί που πηδάει η κατσίκα, πηδάει και το κατσικάκι.

雌山羊が跳ぶところから子山羊も跳ぶ

(13)Όπως είναι η γίδα γίνεται το κατσίκι.

山羊のように子山羊もなる

(14)Καλό κριάρι κάνει καλό αρνί.

良い雄羊が良い仔羊を育てる

このように、親の影響力は非常に強いものがあると言うが、諺の世界では、その反対に、上でも見たように「育ての親」とか、以下の5）でも見るように、環境の影響力も強いと言っていておもしろい。これは、以前にも述べた(cf.浮田,1988)が、諺の世界での「矛盾の論理」(cf.外山,1983)である。

(10)の表現は、その人の人格・人間性も見せてくれるであろうが、娘の何年後かの体型も見ることができることを暗示しているようである。日本の諺にも同様な表現が見られる。

また、(11)では、雌鶏とひよこ、(12)では、雌山羊と子山羊、(13)では、

山羊と子山羊、(14)では、雄羊と仔羊のように、家畜を比喩の材料として利用して表現を形成している。ここでの比喩の素材としての動物の選択の仕方は、特徴的である（cf.浮田,1989）。

3）甘やかし

先に、教育における「厳しさ」の表現を見たが、これを異なる角度から述べたものに「甘やかしてはいけない」と言う禁止の考え方が成り立つ。これを表現しようとしたものもかなり見られる。

(15)Κάθε παιδί φαίνεται όμορφο στη μάνα του.
　子供はみんなその子の母には美しく見える
(16)Κάθε μάνας τα παιδιά της φαίνονται ωραία.
　全ての母親に自分の子は美しく見える
(17)Είπε η κουκουβάγια: το παιδί μου είναι το καλύτερο.
　ふくろうが言うには：私の子が一番きれいだ
(18)Ελιά και συκιά έχε τες εχθρούς.
　オリーブといちじく敵として持て

(15)(16)(17)表現の中には、ギリシアの「親馬鹿」の姿が見られる。日本の諺の中にも「甘やかし」あるいは「親馬鹿」を表現するものは多く見られるが、現代ギリシア語のこれらの表現は、日本人の表現の仕方よりもあからさまな表現の仕方である。母の目には「子」は厳しくする必要が無いように見えるのである。

(18)は、”Ελιά「オリーブ」”も”συκιά「無花果」”もギリシア人たちの大好物であり、ついつい手が出る。しかし、食べ過ぎると太るから大変なことになると警告しているのである。

4）人間の素質、性格

我々は、教育によって立派な人間形成を目指しているが、なかなか変わらない性格もある。その世界を表現しようとした諺もまた沢山見いだされる。

(19)Είμαστε Έλληνες και μιλούμε ελληνικά.
　私たちはギリシア人でギリシア語を話す
(20)Είμαστε όλοι παιδιά του Αδάμ και της Εύας.
　私たちはみんなアダムとエバの子供だ

(21)Ο λύκος αλλάζει το δέρμα του, μα όχι τα ελλατώματα του.

狼はその肌を変えるが自分の欠点は変えない

(22)Οι γίδες πάνε πάντα στους κρημνούς.

山羊は何時も絶壁へ行く

(23)Όποιος γεννιέται τετράγωνος δε μπορεί να πεθάνη στρογγυλός.

四角に生まれた者は丸く死なれない

日本でも、三歳までに形成される性格は、後になってはなかなか変わらないなどと言ったり、生まれつき持っている性格は変わらないと言うことを「雀の踊り」で表現していておもしろいが、現代ギリシア語の諺の場合、(19)(20)(21)(22)では、「ギリシア語」「アダムとエバ」「狼」「山羊」などそれらの表現の背景にあるギリシアの風俗・文化を窺うことができる。

5）環境の力

「学習」の世界では本人の努力は重要であることは間違いないが、それを引き出す環境も大切である。そして、環境はまた大きな力を持っている。

(24)Πες μου με ποιόν πας να σου πω τι δουλειά κάμνεις.

君がどんな仕事をしているかを言うには君が誰と行くかを言え

(25)Πες μου με ποιόν σεναναστρέφεσαι, και θα σου πω τι κάνεις.

君が誰と俳回しているか言え、そうすれば君が何をしているか言おう

(11)Όπου πηγαίνει η κλώσσα πηγαίνουν τα κλωσσόπουλα.

雌鶏が行くところへ雛鶏が行く

(12)Από 'κεί που πηδάει η κατσίκα, πηδάει και το κατσικάκι.

雌山羊が跳ぶところから子山羊も跳ぶ

(26)Η αγριόβρομη τρώει το σιτάρι.

野生のオート麦は大麦を食う

日本の諺でも友達の影響が強いことを暗示する表現を思い出すことは難しくないが、現代ギリシア語の諺、(24)(25)でも、その人の友達あるいは仲間を見れば、その人本人のこともよく分かると言い、友達の影響力の強さを表現している。また、先にも見たが(11)では、「親鶏」を「雛鶏」が、(12)では、「雌山羊」をその「子山羊」が真似ている姿が描かれている。ここでは、親が環境の主であり、子の師である。

(26)では、「野生のオート麦」は、悪い環境を暗示しており、日本の諺に

は「朱に交われば、、、」と言う悪い環境を暗示するものもある。また、(26)の植物と比べてみると、日本語の諺には「松と藤」などのように助け合う場合とか良い環境を暗示した表現もある。

6）子どもの生命力

子どもは、ほっておいても育つと言う概念は、忙し者の放任主義者にとってはありがたい考え方である。

(27)Κανένας δε γεννιέται με μουστάκια.
　誰も口髭を生やして生まれてこない
cf.(28)Ο πολύς ο ύπνος κάνει κακό.
　寝過ぎは良くない

(27)では、子供も放っておけばそれなりに育ちそのうち「口髭」も生えてくるものであると表現している。日本でも、「寝る子は育つ」とか「子供は風の子」などと言われ、放っておいても十分よく育つものである。

(28)は、上記の日本語の「寝る子は」と矛盾するようであるが、これは使用される場面が異なっているようである。ともあれ、「過ぎたるは、、、」であろう。

3、教育の時期

教育の時期も大切である。期を逸した教育は結局は無駄なことが多いようである。

(29)Κάθε πράμα στον καιρό του.
　全ての物事は各々の好機に
(30)Τα καινούρια λάχανα φύτεψέ τα, τα παλιά μην τα τραβάς.
　新しいキャベツは植え、古いのは引き抜くな

(29)は、上記の事柄「教育の時期の大切さ」を端的に表現したものであり、表現としてはあまりおもしろくない。しかし、(30)では、「キャベツ」を比喩の対象に利用した興味深い表現を作っている。日本語の場合は、同じような内容のことを、「老木」とか「若木」とか「麦の肥」などといった比喩の素材を利用して表現していておもしろい。

4、教育の結果（芸、職）

現代の教育には大変な資金がかかるが、教育は盛んになってきているようである。さて、その成果は如何なものであろうか。

1）教育の結果の意義

教育の結果の意義を表現したものには次のようなものが挙げられる。

(31)Κανένας δε γεννιέται σπουδασμένος.
　誰も愚か者として生まれてこない

(32)Όποιος έχει μια τέχνη ζη στον κόσμο αυτόν.
　技術を持つ者がこの世で生きる

cf.(33)Αν δεν έχης φτερά του γερακιού, να μη πας ψηλά.
　もしおまえが鷹の羽を持っていなければ、高い所へ行くな

cf.(34)Τα λόγια των παλιών είναι το καλύτερο βιβλίο.
　老人たちの言葉は最良の本である

cf.(35)Πιο πολύ ζης, πιο πολύ μαθαίνεις.
　より長く生きれば、より多く学ぶ

(32)の表現は、教育・学習の成果の意義を表しており、日本の「芸は身を助く」とよく似ている。(31)では、誰でも教育を受け、学習すれば、その成果が現れるはずである。だから、これから教育を受け立派に成長しなければならないのであり、また、その可能性があることを表している。

cf.に挙げた(33) では、学習の成果も踏まえて、身の程を知らなければならないと言うことも表現している。(34)も(35)も、「真」であろう。日本の諺にも「六十の手習い」と言うのがある。

2）教育の無駄

ところで、教育は資金ばかりかかって、親は「結局損をした」と嘆く場合もあるようである。だから、(5) のような表現も出てくる。虚学と言われる文化系の学問をしている諸君には耳が痛いかもしれない。豚と比較されないようにしたいものである。もう一度、(5)を挙げておおこう。

(5)Κάλλιο να μεγαλώσης ένα γουρούνι παρά ένα παιδί.
　子供よりも豚を育てる方がましだ

cf.(36)Όποιος πιότερο διαβάζει, πιότερο τρελλαίνεται.

より多く本を読む者は、益々頭がおかしくなる

cf.(37)Το πρώτο παιδί είναι έξυπνο ή κουτό.

第一子は賢いか愚か者である

cf.(38)Όλα τα νερά πάνε στη θάλασσα.

全ての水は海へ注ぐ

(5)に見られる「直接役に立つ」ものあるいは「目前の」ことを重要視する考え方は、(現代の)ギリシア的なものの考え方なのであろうか。

日本の諺では、いくら教育しても「蛙は蛙」以上にはなれないと言っているものもあるし、「詩」よりも「田」を作る方が役に立つと言うのもある。

cf.で挙げた(36)のようになっては、何をかいわんやであるが、確かにこの世には、読みすぎて、「～馬鹿」とか「～気違い」とか「～狂」などが多くなっている。(37)では、結局親の目には、教育で成功すれば「賢く」なり、失敗すれば「愚か者」になるのである。また、(38)は、「息子が偉くなった。それは、当然だ。親の血を引くものだから。」などと自慢そうに話す、自らも褒めている「親馬鹿」の姿が目に浮かんでくる。

5、学習の仕方

そう言いながらも、多くの者が教育を受け、学習をする。それは、これまで見てきた諺にも見られる通りである。そして、もちろん、教育・学習の場合だけではなく、労働に関しても当てはまる。

(39)Σταγόνα σταγόνα αδειάζει το βαρέλι.

一滴一滴樽は空になる

(40)Σταγόνα σταγόνα βαθαίνει η πέτρα.

一滴一滴石は深くなる

(41)Όποιος γυρεύει βρίσκει.

捜す者は見つける

(42)Όποιος πάει σιγά πάει καλά.

ゆっくり行く者は上手に行く

(39)(40)の諺は、多くの日本人に好まれて使われる「塵も積もれば山となる」で暗示される、学問も何事も「こつこつ」努力しなければならないと言

う考え方を表現している。(40)と酷似した日本の諺には、「水滴磐を穿つ」というのがある。(42)の場合も、これに似た日本の諺もある。

これらは、基本的には処世訓であり、処世術の中の一部、学習をするときの態度でもある。(41)も、同様に考えてよいであろう。

おわりに

今回は、現代ギリシア語に見られる教育に関する諺を見て、その比喩の仕方を分析し、そこに見られるギリシア人の教育に対する考え方、態度を考察してみた。それらの表現の仕方の背景にギリシアの風俗・文化を論じることもできる。

それらの特徴は、それぞれの項で述べてみたが、この考察は、さらに日本語の諺との対照比較研究へと繋げていくものである。また、本稿は、第７回ギリシア語・文学研究会で口頭発表したものに、特にギリシア語の諺の方面からさらに詳しく考察を進めたものである。

参考文献

石垣幸雄、『世界のことわざ・1000句集』、自由国民社、1986

浮田三郎、「日本語と現代ギリシア語（方言）の諺対照比較研究ー諺に見られる素材を中心にー」、『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』、広島大学教育学部、1988、pp.59-64

浮田三郎、「日本語と現代ギリシア語（方言）の諺対照比較研究（2）ー素材「女」の見られる諺を中心にー」、『広島大学教育学部紀要』、第２部　第37号　広島大学教育学部、1988、pp.301-309

浮田三郎、「日本語と現代ギリシア語（方言）の諺対照比較研究（3）ー素材「水」の使われたる諺を中心にー」、『留学生日本語教育に関する理論的・実践的研究』、広島大学教育学部、1989、pp.9-18

浮田三郎、「日本語とギリシア語の諺対照比較研究（4）ー諺の中に使用されたる素材「動物」（1）ー」、『広島大学教育学部紀要』、広島大学教育学部、1989、pp.289-293

浮田三郎、「日本語とギリシア語の天候に関する諺対照比較研究（１）ー天気予報の諺ー」、『吉川守先生御退官記念言語学論文集』、渓水社、1995、pp.46-57

浮田三郎、「日本語とギリシア語の天候に関する諺対照比較研究（２）ー天

候と生活ー」、『プロピレア』、ギリシア語・文学研究会、1994、pp.19-34
奥津文夫、『ことわざ・英語と日本語』、サイマル出版、1978
金子武雄、『日本のことわざ』（全 4巻）、海燕書房、（一）評釈、（二）続評釈、1982、（三）評論、（四）概説・講説、1983
関本至、「現代ギリシア方言に見る諺の修辞法」、『レトリックと文体』（古田敬一　編）、丸善株式会社、1983
尚学図書編集、『故事俗事ことわざ大辞典』、小学館、1982
外山慈比古、「渡る世間に鬼はない＜ことわざと論理＞」、『月刊言語』、Vol. 12, No. 1, 1983, PP.30-35
Βενεζέλου, Ι., *Παροιμίαι τοῦ Ἑλληνικοῦ Λαοῦ, Φοιτητική Γωνιά,* Ἀθῆναι,1965
Μιχαήλ, Μαρία-Δέδε, *2500 Ἑλληνικές Παροιμίες (καί Λεγόμενα),* Σπῦρος Ν. Μπογιάτης, Ἀθήνα, 1981
Rohlfs, G., *Italogriechische Sprichwörter in linguistischer Konfrontation mit neugriechischen Dialekten,* München, 1971
Smith, William George; *The Oxford Dictionary of English Proverbs,* The Clarendon Press, Oxford, 1952
Τριανταφυλλίδη, Μανόλη Ἀ., *Παροιμιακὲς Φράσεις ἀπὸ τὴν Ἱστορία καὶ τὴ Λογοτεχνία,* Ἀθήνα, (年代不詳)